

教育に関する事務の点検・評価報告書

(平成28年度事業)

平成29年8月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
	(1) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(2) 教育長・委員の活動状況	4
	(3) 教育長・委員の研修状況	4
4	点検・評価の対象事業	5

No.	分 野	事務・事業名	担当課等
1	学校教育	学校トイレ改修事業	教育総務課
2	学校教育	こころのプロジェクト「夢の教室」事業	教育指導課
3	生涯学習	市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業	生涯学習課
4	生涯学習	さけの郷土料理教室	花館公民館
5	芸術・文化	かみおか地域文化祭	神岡中央公民館
6	芸術・文化	にしせんぼく文化祭	西仙北中央公民館
7	生涯学習	児童書道作品表装体験教室開催事業	中仙公民館
8	芸術・文化	協和地域文化財防火訓練	協和公民館
9	学校教育 生涯学習	東日本大震災被災地（宮城県南三陸町）交流事業	南外公民館
10	生涯学習	子ども書道教室	仙北公民館
11	生涯学習	太田地域家庭教育学級	太田公民館
12	生涯学習	「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業	総合図書館
13	芸術・文化	秋田おばこ節全国大会	総合市民会館
14	芸術・文化	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業	文化財保護課
15	スポーツ	全国500歳野球プレ大会	スポーツ振興課

5	学識経験者の総評	20
---	----------	----

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、平成28年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、15事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田大学教育文化学部 佐藤修司教授、社会教育委員 鈴木三郎氏、前大曲小学校校長 毛利博信氏の3氏から評価していただきました。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。平成28年度は、定例会のほか臨時会を1回開催し、合計13回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H28. 4. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第19号 社会教育指導員の委嘱に関する臨時代理について 議案第20号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第21号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第22号 大仙市文化財の指定について
H28. 5. 30 (定例会) 大曲図書館	議案第23号 平成28年度大仙市一般会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について 議案第24号 平成28年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第1号)案に関する臨時代理について 議案第25号 県費負担教職員の人事の内申に関する臨時代理について
H28. 6. 28 (定例会) 大曲図書館	議案第26号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱に関する臨時代理について 議案第27号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
H28. 7. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第28号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第29号 教育支援専門検査員の委嘱について
H28. 8. 22 (定例会) 大曲図書館	議案第30号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について
H28. 9. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第31号 平成28年度大仙市一般会計補正予算(第3号)案に関する臨時代理について 議案第32号 平成28年度大仙市一般会計補正予算(第4号)案に関する臨時代理について 議案第33号 大仙市文化財の指定について
H28. 10. 17 (定例会) 仙北ふれあい文化センター	議案なし (報告案件のみ)
H28. 11. 25 (定例会) 大曲図書館	議案第34号 大仙市八乙女交流センターの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第35号 大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第36号 平成28年度大仙市一般会計補正予算(第6号)案に関する臨時代理について 議案第37号 平成28年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について

	議案第38号 平成28年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について
H28.12.22 (定例会) 大曲図書館	議案第39号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について
H29.1.17 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定に関する臨時代理について 議案第2号 大仙市学校給食センター学校栄養職員の服務に関する規則の制定に関する臨時代理について 議案第3号 大仙市学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定に関する臨時代理について
H29.2.23 (定例会) 大曲図書館	議案第4号 平成28年度大仙市一般会計補正予算(第9号)案に関する臨時代理について 議案第5号 平成28年度大仙市奨学資金特別会計補正予算(第1号)案に関する臨時代理について 議案第6号 平成29年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第7号 平成29年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第8号 平成29年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第9号 平成29年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について
H29.2.27 (臨時会) 大曲図書館	議案第10号 県費負担教職員の人事の内申について
H29.3.23 (定例会) 大曲図書館	議案第11号 大仙市教育委員会事務局等处務規則の制定について 議案第12号 大仙市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について 議案第13号 大仙市教育アドバイザー設置規則の一部を改正する規則の制定について 議案第14号 大仙市立図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第15号 大仙市学校教育関係補助金交付要綱を廃止する要綱の制定について 議案第16号 教育アドバイザーの任命について 議案第17号 教育アドバイザーの任命について 議案第18号 社会教育指導員の委嘱について 議案第19号 大仙市市民会館等運営連絡協議会委員の委嘱について 議案第20号 大仙市市民会館等運営連絡協議会専門委員会委員の委嘱について 議案第21号 大仙市文化財保護審議会委員の任命について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育長・委員の活動状況

入学式 平成28年4月 6日から4月 8日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
公民館訪問 平成28年4月14日・19日 市内 8 公民館
学校訪問 平成28年5月23日から7月 5日まで 小学校21校、中学校11校 全32校
卒業式 平成29年3月11日から3月16日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

(3) 教育長・委員の研修状況

平成28年 5月26日 平成28年度全州市町村教育委員会委員長・教育長会議（第1回）
教育長及び風登委員が出席
平成28年 7月15日 平成28年度東北六州市町村教育委員会連合会教育委員会・教育長研修会
教育長及び風登委員が出席
平成28年10月17日 高梨神社及び旧池田氏庭園弘田分家庭園視察
教育長及び全委員が出席
平成28年11月18日 平成28年度全州市町村教育委員会委員長・教育長会議（第2回）
風登委員が出席
平成28年11月21日 平成28年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会
教育長、風登委員、竹原委員及び工藤委員が出席

事務事業の点検・評価表

	番号	2	分野	学校教育	担当課	教育指導課
事業名	こころのプロジェクト「夢の教室」事業					
事業の目的	プロスポーツ選手や芸術家などの著名人を招いて、一緒にスポーツをしたり、芸術家の技や演奏を実際に見たり聴いたり、講話を聴くことで、子どもたちが夢をもつことの素晴らしさや、努力することの大切さを知り、自分の夢の実現に向かっていこうとする気持ちを育てることを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		1,672千円			
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>プロスポーツ選手や芸術家などの著名人と一緒にスポーツをしたり、演奏を実際に見たり聴いたり、講話を聴いたりすることで、子どもたちが夢をもち、夢に向かって粘り強く努力する気持ちが生まれ、キャリア教育の視点からも有意義であり、事業を継続して実施していく必要がある。</p>					
課題等	学校側の実施希望にはばらつきがあり、講師の依頼時期によって調整が難しい場合がある。					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ できる限り、全ての学校において希望を生かしながら今後とも継続的に実施していただきたい。全校において音楽、美術、体育が3年サイクルなどで一通り体験できることが望ましい。全国的に有名な人ばかりではなく、東北、県、市レベルで活躍している人材をもっと活用してもよいように感じる。</p> <p>◇ 市の単独事業として毎年度開催されてきたところですが、芸術文化スポーツ関係などの著名人を招いての実技指導や演奏・講話を直接見たり聞いたりすることで、子供たちが夢を持ち夢に向かっていくきっかけにつながっていく事業と思われます。毎年度予算確保が難しくなってくるようですが、各学校からの要望を十分に把握しながら、各分野の講師の選定範囲にも工夫をこらしながら実績を積み上げてもらいたいものです。教育現場の要望・反響が市民に知れわたることにより、これまで以上の予算の確保と事業の継続が見込まれると思います。他にも教育事業として「コロンブスの卵わくわくサイエンス事業」がありますが、これも毎年度創意工夫を取り入れることにより更なる発展が期待できると思われ、関係者の一層のご奮闘をお願い申し上げます。</p> <p>□ 子どもたちの夢を育むことのできる、魅力ある講師の確保や発掘が難儀であろうことは、十分理解できる。しかし、自分の夢の実現に向かって努力できる子どもを育てることは、学校教育の究極目標の一つである。学校からの希望を受けることに加え、市役所各課・各支所・公民館、マスコミ機関、商工会関係等に情報収集ネットワークを広げ、子どもたちの発達段階に応じて事業の目的を達成できる講師の獲得を強く望む。</p>					

事務事業の点検・評価表

	番号	3	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
事業名	市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業					
事業の目的	地域課題を探り、地域資源について学ぶ「地元学」の学習機会を提供していく上で、市民や団体が講師を務める「市民大学教養講座」を開催し、「知の循環型社会」の実現を目指す。					
事業の 実施状況	事業費					0千円
	<p>様々な地域資源のうち、市民大学教養講座では「大仙自然保護の会」との共催により、原生植物や野鳥観察など自然環境に関する講座のほか、地域の歴史に焦点を当てた内容で開催した。講座では、会の代表を中心に普段あまり訪れる機会がない場所を設定し、ボランティアによる現地調査や下見を実施し、安全面に細心の注意を払った。当日は参加者の方と実際に現地を訪れウォーキングを楽しみながら、幅広く関心を持っていただける内容で開催した。</p> <p>平成28年度は羽黒山など神岡地域近隣で実施する計画で募集したところ、募集定員の30人を上回る申込みがあり、キャンセル待ちが出る程であった。当日は、大仙自然保護の会のガイドボランティアを含む全43人の参加で実施した。当日実施したアンケートによれば、参加者からは100%に近い満足度が得られたなどの感想が寄せられ、隠れた名所の魅力をPRする上で大きな成果が上げられた。</p> <p>また、今回も少人数にグループ分けをし、それぞれに案内人を随行させ実施したところ、大人数で一方的な説明を聞きながら回る事業に比べ、懇切丁寧な説明を受けることができたこと非常に好評であった。今後も案内人の確保ができる限り、このような少人数編成の研修が望ましいように思われる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時：平成28年5月10日（火）8:45～16:10 ・参加人数：一般30人、会員8人、職員5人 ・実施場所：神岡地域近隣 <p>(実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 8:45 集合・日程説明（9:00出発） 9:25 羽黒山登り口着・準備運動等 9:45 「軽登山」（登り口～三十三番観音～三峰山） 11:50 移動・昼食（～13:00） 13:00 ウォーキング（野草観察・解説） 13:30 バス移動・大浦沼ウォーキング（野鳥観察） 15:05 笹倉公園着・ウォーキング（自由散策） 16:10 市民会館着・終わりの会・解散 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 48%;"> <p>【平成26年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時：平成26年5月8日（木）8:45～16:30 ・参加人数：一般27人、会員18人、職員5人 ・実施場所：南外地域、西仙北地域、協和地域 </div> <div style="width: 48%;"> <p>【平成27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日時：平成27年5月8日（金）8:45～17:00 ・参加人数：一般35人、会員8人、職員5人 ・実施場所：中仙地域、太田地域 </div> </div>					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> </div> </div> <p>今年度も新しいコースを設定し、大仙市西部地域で実施することができた。今後も、市内の様々な地域資源について学ぶことができる「地元学」の学習機会を提供していく上で、講師役の市民団体と協議し改善を加えながら、更なる学習内容の向上を図っていく。また、これまで学習者の立場であった市民や団体が講師を務める「行動人」として今後も一層地域の学習活動に参画していただくことにより、地域全体の生涯学習振興が図られていくように継続実施していく。</p>					
課題等	<p>現在、大仙自然保護の会の全面的な協力の下、「山野草・野鳥・歴史」などの地域資源について、参加住民が学びを深められる内容で市民大学という位置付けで開催しているが、今後はそれ以外の学習分野についても幅広く学びを深められるようなプログラムの開発が課題である。</p> <p>そのため、現在、市から県サイトへ登録されている「行動人」との連携を深め、実現に向け検討していく。</p>					
外部評価 有識者の 意見・評価	<p>○ よい企画であり、ぜひ継続的に実施していただきたい。年度により実施場所を変えながら、全市をカバーできるように取り組んでいただきたい。学校、市役所等も含めた職員研修としても別個に開催してもいいように思う。</p> <p>◇ 市と市民団体との共催により実施された同事業は、ゼロ予算事業として継続して行われてきました。予算を伴わずとも、市民団体の協力を得ることにより市民に喜ばれる事業であったと思われます。こうした共同事業は自然や歴史、里山登山等々ふるさと再発見シリーズとして分野を広げた事業が展開できるものと思われます。</p> <p>□ 今後も継続いただきたい、優れた事業である。大仙市の優れた文化や豊かな自然に触れる「地元学」による生涯学習振興という観点に加え、大仙市民であることを喜び合うオール大仙的郷土愛を醸成していただきたい。8市町村合併による大仙市誕生から、12年が経過した。しかし、諸会合の折など未だに旧市町村への無用のこだわりが感じられることがある。このような事業を継続発展させることで、また若い世代の参画を促すことで、市全体の発展を願う市民が育ち、活性を支えてくれると考える。一層の充実を期待申し上げたい。</p>					

事務事業の点検・評価表

番号	12	分野	生涯学習	担当課	総合図書館
----	----	----	------	-----	-------

事業名	「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業							
事業の目的	平成27年度に策定した「第2次大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」において制定した「だいせん読書の日」における読書活動を推進し、家族や地域、社会が一体となった読書活動を行い、子どもが自立した読書ができるようになり、自らが次の世代の読書の支援者となって、読書の喜びを伝えていくことを目的とする。							
事業の実施状況	事業費	265千円						
	<p>○「だいせん読書の日」における読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画」において、11月第1木曜日を「だいせん読書の日」に制定。各図書館では「だいせん読書の日」及び「読書週間」に合わせ、多様なイベントを開催した。 【28年度全館開催イベント・展示数】 イベント数(16)、展示数(7) 【延べ参加者数】 7,474人(47日間) ・大曲図書館ではボランティアや地域の方々の協力の下、“気軽にぶらりと来ていただけるライブラリー”を目指して「来ぶらりフェス」を27年度から開催し、来館者から好評を得ている。 【28年度内容】 読み聞かせ、郷土資料公開講座、カバー掛け講座等 【来館者数】 1,451人(2日間) ・小・中学校では「大仙っ子読書の日」として浸透してきており、期間中の貸出冊数の増加につながっている。 【貸出冊数】 <p>()は図書館提供リスト外の貸出率</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>H27</td> <td>H28</td> </tr> <tr> <td>691冊(79.2%)</td> <td>1459冊(94.0%)</td> </tr> </table>					H27	H28	691冊(79.2%)
H27	H28							
691冊(79.2%)	1459冊(94.0%)							
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった							
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から開始した「だいせん読書の日」における読書活動の推進事業により、各館が創意工夫を凝らした多様なイベントや展示が実施されており、来館者からも好を得ている。また、子ども読書支援サポーターの働きかけもあり、小・中学校にも事業の理解が浸透しつつあり、期間中の図書貸出冊数も増加している。 ・貸し出した図書において、図書館が提供したリスト以外の貸出率が高い割合となっていることから、ニーズに応じたリスト提供ができるような選書にする必要がある。 							
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・「だいせん読書の日」をきっかけとして、継続して図書館に足を運び本に親しんでもらえるよう、アンケート調査の結果をもとに、ニーズに応じたイベントを企画するとともに、市全体で読書活動を推進するため、より一層PRを強化する必要がある。 ・利用者のニーズに応じたブックリストを作成するため、図書館担当者会議で情報収集を行い、利用率を高めるリストを提供し利便性の向上を図る必要がある。 							
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ だいせん読書の日様々な活動が工夫されており、継続して取り組んでいただきたい。ブックリストについては、子ども自身からの声を反映させたり、子ども自身が選定するリスト、学校教職員が選定するリストを作ったりすることも考えられる。 ◇ 平成27年度から開始した「だいせん読書の日」は読書週間と合わさり、小・中学校にも浸透していて期間中の図書貸出冊数も増加しています。 また、各図書館でも創意工夫を凝らしたイベントが多数開催されるなど来館者から好評を得ています。利用者ニーズに応じたイベントを企画するには図書館担当者会議にボランティアからも参加してもらうなどして、市民が気軽に立ち寄れる雰囲気を取り入れてほしい。 □ 読書活動の推進事業の一つとして「だいせん読書の日」が定着しつつあり、嬉しく思う。期間中の小・中学校の貸出し冊数が急増していることは、定着の顕著な現れと受け止める。大曲図書館等、決して恵まれてはいない公立図書館環境ではあるが、その中であってこそ新しいアイデアと工夫で市民の読書活動進展に尽力いただきたい。武雄市図書館が様々な物議を醸してはいるが、斬新なアイデアにより大幅集客につながったのは事実である。広い駐車場が、県外ナンバーの車で満車であったし、館内では多くの来館者がコーヒーを飲みながら読書に没頭していた。是非は別にして、アイデアが現状を変えることを痛感した。 							

事務事業の点検・評価表

番号	13	分野	芸術・文化	担当課	総合市民会館
----	----	----	-------	-----	--------

事業名	秋田おばこ節全国大会																																																																																																			
事業の目的	「秋田おばこ節」を後世に末永く伝承し、また、民謡を通じて豊かな文化の継承と普及、地域活性化の一端を担うことを目的に開催する。																																																																																																			
事業の実施状況	事業費	2,439千円																																																																																																		
	<p>1 開催時期 毎年6月第1日曜日</p> <p>2 開催場所 大曲市民会館</p> <p>3 大会区分 大賞の部、熟年の部(開催日現在満75歳以上)、年少の部(中学生以下)</p> <p style="text-align: center;">第26回以降の大会出場者数および内訳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">大賞の部</th> <th colspan="3">熟年の部</th> <th colspan="3">年少の部</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>市内</th> <th>市外</th> <th>県外</th> <th>市内</th> <th>市外</th> <th>県外</th> <th>市内</th> <th>市外</th> <th>県外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第26回</td> <td colspan="3">81</td> <td colspan="3">29</td> <td colspan="3">32</td> <td rowspan="3">142</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11</td> <td>54</td> <td>16</td> <td>3</td> <td>23</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>28</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td colspan="3">68</td> <td colspan="3">31</td> <td colspan="3">32</td> <td rowspan="3">131</td> </tr> <tr> <td></td> <td>13</td> <td>49</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>24</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>30</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td colspan="3">77</td> <td colspan="3">27</td> <td colspan="3">26</td> <td rowspan="3">130</td> </tr> <tr> <td></td> <td>19</td> <td>41</td> <td>17</td> <td>5</td> <td>21</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>23</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>近年は民謡愛好者の高齢化に伴い、大会出場者も高齢化が進んでおり、第26回大会からは熟年の部を70歳以上から75歳以上に引き上げ、大賞の部と熟年の部の出場者の均衡を図っている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>第1回～11回</td> <td>高齢者の部</td> <td>60歳以上</td> </tr> <tr> <td>12回～17回</td> <td>熟年の部</td> <td>65歳以上</td> </tr> <tr> <td>18回～25回</td> <td>"</td> <td>70歳以上</td> </tr> <tr> <td>26回～</td> <td>"</td> <td>75歳以上</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">第15回以降の大会出場者数の推移</p>						大賞の部			熟年の部			年少の部			合計	市内	市外	県外	市内	市外	県外	市内	市外	県外	第26回	81			29			32			142		11	54	16	3	23	3	0	28	4	第27回	68			31			32			131		13	49	6	5	24	2	0	30	2	第28回	77			27			26			130		19	41	17	5	21	1	0	23	3	第1回～11回	高齢者の部	60歳以上	12回～17回	熟年の部	65歳以上	18回～25回	"	70歳以上	26回～	"	75歳以上
	大賞の部			熟年の部			年少の部			合計																																																																																										
	市内	市外	県外	市内	市外	県外	市内	市外	県外																																																																																											
第26回	81			29			32			142																																																																																										
	11	54	16	3	23	3	0	28	4																																																																																											
第27回	68			31			32				131																																																																																									
	13	49	6	5	24	2	0	30	2																																																																																											
第28回	77			27			26			130																																																																																										
	19	41	17	5	21	1	0	23	3																																																																																											
第1回～11回	高齢者の部	60歳以上																																																																																																		
12回～17回	熟年の部	65歳以上																																																																																																		
18回～25回	"	70歳以上																																																																																																		
26回～	"	75歳以上																																																																																																		
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった 県内をはじめ県外からも出場者が集まる大会となっており、過去の優勝者の中には、ほかの民謡全国大会で優勝したり、プロの民謡歌手として活躍している方もおり、秋田民謡の伝承と普及に貢献している。																																																																																																			
課題等	大会全体の出場者、年少の部の出場者は横ばいで推移しているが、26年度からは年少の部での市内応募者がゼロの状況が続いており、このままでは「民謡王国秋田」の先祖が遺した貴重な民謡文化遺産も低落し、当市における民謡継承にも不安を感じている。 今後は学校の音楽授業などで生の民謡を聴いたり、小中学校でのクラブ活動でも地元民謡を取り上げてもらい、民謡文化にふれあう機会を増やしていくことを検討していく必要がある。																																																																																																			
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 市内からの出場者が少なく、とりわけ年少の部のゼロは残念であり、学校と連携した取組が急務である。音楽の授業、クラブ活動で確実に民謡が取り上げられるように、学校や、教育委員会の学校教育部門との連携を進めていただきたい。学校代表の選出、学校間対抗ができるようになれば理想である。</p> <p>◇ 今年で29回目を数える秋田おばこ節全国大会は、出場者の高齢化が進む中、26年度から年少者部門で市内からの応募者ゼロが続いている。県内で開催される民謡全国大会の中でも、本大会は古い歴史を誇ってきました。将来の出場者参加を促すためにも、各民謡団体が学校に出向くなどして民謡の指導や教室の開催などできないものではないでしょうか。</p> <p>□ 大会の継続と発展を望む。各地区での民謡コンクールが、民謡継承を支えてくれていることを強く感じている。課題欄にも記載があるように、子どもたちには、民謡の生演奏を聴かせたい。民謡をテレビやラジオあるいはCDで聴くのと生の演奏とでは、全く印象が異なる。生の演奏で、尺八・三味線・太鼓等の演奏に乗せた朗々とした歌声を聴かなければ、感動は容易に伝わらないと思う。各地区での大会決勝等を、子どもたちにも聴かせたいものである。</p>																																																																																																			

事務事業の点検・評価表

	番号	14	分野	芸術・文化	担当課	文化財保護課
事業名	角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業					
事業の目的	<p>東北地方を代表する雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」を活用し、角間川地域全体の歴史と交流をキーワードに、地域活性化拠点エリアを「川のまち歴史交流の杜」として整備する。</p> <p>国登録有形文化財の本郷家住宅をはじめとした秀逸な近代建造物群を利活用できるように、エリア内へ案内所等の便益施設を計画的に整備し、地域文化向上と、旧池田氏庭園・角館・増田などとの広域的な文化観光交流を推進する。</p>					
事業の実施状況	事業費(決算額)		36,613千円			
	<p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(仮称)川のまち角間川・歴史交流館整備について(基本構想) 策定 ○大仙市議会 議員説明会を開催 ○角間川エリアを地域資源として捉えた地域活性化を目指した住民活動が本格始動 <p>平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本郷家住宅 国登録有形文化財(建造物)へ登録(平成28年11月) ○土地収用法に基づく県知事事業認定を取得(平成29年2月) ○河港のまち角間川・歴史まちづくり事業基本計画策定(平成29年3月) ○荒川家敷地公有化(売買取得)完了(平成29年3月) 事業費 33,257千円 ※荒川家敷地内の建造物(主屋・内蔵・味噌蔵他)については、寄付採納を受納した。 ○広報広聴活動 大仙市文化財保護審議会の現地指導、議会常任委員会現地指導 (一社)秋田県建築士会 現地視察(建築士会大会)・意見提言の収集 角間川地区コミュニティ会議、地区任意団体(まちづくりグループ等)との座談会開催 					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>平成28年度事業については、土地収用法事業認定・事業基本計画策定・地元をはじめとした広報・広聴活動など、歴史まちづくり事業の土台づくりとなる事務事業を種々実施した。</p> <p>今後、緊急的な保存整備をおおむね5年で行うとともに、まち歩き情報や地元産品等の販売機会の提供を可能とするエリア整備によって広域的な交流人口の増大を目指す。ハード面の整備が一段落した段階で、地元団体との管理運営に関する協働体制を構築していきたい。</p>					
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物群の老朽化が進んでいることから、早急に点検整備する必要がある。 ・建造物群(部材含む。)が秀逸であり、地元住民・団体から「できる限り現在の姿で保存してほしい」旨の強い要望が寄せられていることから、改修整備(案内所等の便益施設整備)に際しては、梁や柱などを残す在来木造工法を導入する方針とするが、工事実施設計・監理に高い技術と経験、また、相応の建築コストを要する。 ・上記に際し、建築基準法、消防法との適合化などの課題があるが、可能な範囲で地元要望を反映させたい。 					
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の整備・維持には多大な費用がかかることから、大仙市にとっての観光上、経済上の価値を訴えていっていただきたい。既存のものとのコラボレーションにより、他市町村、他都道府県からの誘客につなげられれば理想である。 ◇ 雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」は、国登録有形文化財の本郷家住宅をはじめ荒川家、北島家が並び、明治期の県内を代表する地主町の面影が残る街並みです。本郷家、荒川家ともに老朽化が進んでいるが、今後5年間で保存整備を行うこととなっている。改修整備は梁や柱などを残す在来工法を取り入れることから、相応の建築コストがかかることと見込まれている。そのため旧池田氏庭園改修工事の例からも、長い期間をかけての改修整備はやむを得ないと思われます。大仙市の著名史跡である払田柵跡、旧池田氏庭園、檜岡城跡に新しく角間川の旧家群が加わることとなります。歴史探訪ファンにとって、一度は訪れてみたい場所ではないでしょうか。歴史ボランティアガイドの育成も必要となるでしょう。この場所を有機的に結びつけた観光戦略を練り上げるべきと思われます。 □ 河港として栄えた角間川の歴史に、再び光が当たり嬉しく思う。建造物の整備、周辺環境整備等には、莫大な予算と時間あるいは労力を要することと思うが、地元住民の期待や要望に可能な限り応えていただきたい。その上で地元住民には、民謡や盆踊り等の優れた文化や、古くから伝わる地元物産の継承発展やリニューアル、更にはボランティア案内人の育成などをお願いし、公民連携によるハード・ソフト両面からの角間川活性に向け尽力いただきたい。 					

事務事業の点検・評価表

	番号	15	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課
事業名	全国500歳野球プレ大会					
事業の目的	平成29年度に本市で開催する第1回全国500歳野球大会へ向けて、平成28年度はプレ大会を開催した。「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズの下、高齢者が野球を楽しみながら健康づくりを行うことをモットーに、500歳野球の全国大会を展開することで、生涯スポーツとしての野球を楽しみながら、長寿社会の形成に資する。併せて、地域知名度の向上と観光宣伝及び特産品PRを通じて地域活性化を図ることを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		3,500千円			
	○平成26年12月 全県500歳野球大会の役員や関係機関、出場選手などからの全国大会開催に向けて気運が高まる意見が多く寄せられるようになったことに加え、全国版のマスメディアからの取材数も増えてきていることから、市長協議・魁新報社社長協議を経て、約2年程の期間で本大会の開催につなげるよう確認する。					
	○平成27年2月 徳島県阿南市(野球のまち推進課)及び徳島新聞社へのPRと普及活動を皮切りに、平成28年11月までに19会場で30団体に説明会を行うなどPRと普及活動を展開してきた。 ○平成28年7月 全国500歳野球プレ大会を開催。県外6都県から9チームを含む13チームの参加で、歓迎レセプション、物産販売、市内観光ツアー、開会アトラクションのほか、神岡小学校・平和中学校の協力の下、各チームに応援のぼり旗のプレゼントなど、大変好評を得る大会となった。					
自己評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった </div> </div> <p>参加された全てのチームにアンケート調査を実施した結果、大会運営やおもてなしについては、おおむね満足いただいたと認識している。 特に、県外チームにはチームサポート員として、大仙市役所野球部の職員を1チームに2人配置し、宿泊施設への迎えから始まり、滞在中の様々なお世話と、試合にはベンチ入りして注意すべき点やルールの説明など、宿舎に戻るまで全てのサポートに努めていただいた。結果、試合の特別ルールに関してのトラブルもなく、円滑な大会運営ができたと思う。また、事務局やサポート員個人へも感謝の手紙が届くなど、好評であったと認識している。 小中学生が作成した各チームの応援のぼり旗も大変好評で、全てのチームがおみやげとして持ち帰っている。 プレ大会に参加した県外チームは、今年の本大会に全チームが参加することとなったため、大会運営については成功であったと認識し、更におもてなしの充実を図る。</p>					
課題等	アンケートでの不満部分については、斡旋した弁当の値段が高く(900円)レベルが低いという意見が寄せられた。今年は、第3セクター支配人連絡協議会に特産弁当3種類の開発を依頼し、価格(700円)を下げ提供する予定である。 競技スポーツである野球を、生涯スポーツとして楽しんでいただくため、選手に随行するファミリー層へのおもてなしを充実させ、滞在期間のふれあいのイベントの取組に努める。					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 500歳野球大会を他の市町村と持ち回りではなく、大仙市で開催し続けるようにすることは一つの選択肢としていいように思う。高校野球のようなものとは違い、野球愛好、健康づくり、長寿社会のためのイベントとして位置づけられるもので、楽しみながら競い合う取組であろう。阿南市のような積極的な自治体があり、そこでも類似の取組が行われることも考えられることから、全国協議会のようなものを作って、共通のルールづくりを行うことも考えられる。いずれにしても、全国からの集客に結びつけ、地元への経済効果が大きくなるよう、旅行会社ともタイアップし、各種のツアーの一環に位置づけられればよいように思う。</p> <p>◇ 全県500歳野球大会の長い実績から、待ち望まれた全国大会でありました。平成29年度の第1回全国大会に向けての前年大会でありましたが、全てのチームに対してアンケート調査を行うなどした結果、満足いただいたところや、課題があったところが見えてきました。第1回大会では市内の中学生が入場する選手の先導役を務める他、市内全21小学校が作成した各チームののぼり旗が掲げられます。全国から32チームが出場する大会は県外選手が約400人で、うち約280人が市内に宿泊するようです。全国の選手との交流のほか、市への経済波及効果もあることでしょう。この大会が全国花火競技大会に次ぐ、大仙市の目玉行事に育ってもらいたいところです。</p> <p>□ 500歳野球全国大会の開催、誠にありがとうございます。500歳野球を、「大曲の花火」に次ぐ一大イベントに成長させた、関係各位のこれまでのご努力に深甚の敬意を表したい。500歳野球の全国大会や県大会が、共にビックイベントとなり周囲の関心と注目が高まる中で、わずかな手抜きで不評を買うことは、極力避けたいものである。そのためには、遠慮せず周囲の協力を得ることではないかと考える。これだけの大きな行事となり、市役所職員はもとより、一般市民も喜んで協力してくれるものと思う。多くの市民の協力により、500歳野球聖地としての環境を一層充実させたい。</p>					

学識経験者の総評

佐藤修司（秋田大学教育文化学部教授）

少子高齢化、人口減少が地域に影を落としていることは否めない。学校教育も社会教育も例外ではなく、その影響が出ている。このような時代だからこそ、小さくとも輝くような街づくりのための取組が求められる。教育は未来への希望であり、地域の再生産の核になりうるものである。異世代間交流を盛んにして、地域の文化の継承・創造とともに、地域の生業（なりわい）の継承・創造に向け、全世代にわたるキャリア教育に取り組んでいただきたい。学校教育や社会教育の壁を越え、更に、各地域、各行政領域の壁を越えて、地域の維持・存続に真剣に取り組むべき段階に入っていることが痛感される。

学校教育については、今回2項目だけであった。社会教育の項目が多いことと比して、バランスが悪いように感じる。社会教育の公民館ごとのように、学校ごとに項目を出す必要はないが、学校施設・設備の他に、徳（生活指導、児童・生徒指導）、知（学習指導）、体（体力づくり）や、経済支援（奨学金など）などの領域単位で、計4～5項目程度は、毎年度評価の対象にすべきように思える。

鈴木三郎（社会教育委員）

秋田県の人口が100万人を下回るなど、大仙市は今後も人口減少と高齢化が進むものと思われます。

こうした現状を見据え実施された大仙市教育委員会の平成28年度事業の中より、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯教育推進計画、大仙市スポーツ推進計画に基づいて実施した事業のうち、15分野の事業説明を受けました。

年々厳しくなる予算であります。補助事業の活用、単独事業の創意工夫により効果的な教育実績をあげているなど学校教育、生涯学習全般にわたり発展が見られました。

○ 学校教育について

少子化に伴い、小・中学校の学校統合が計画的に進められてきましたが、当面の統廃合は一段落したところです。

学校は地域住民のよりどころとして長年親しまれてきた教育施設ですが、災害時の避難場所としても大きな役割を担っている施設です。

校舎・屋内運動場の耐震化、トイレの改修、災害時の避難訓練、震災被災地との交流事業などにより住民交流が図られるなどの伸展があったと思われます。

○ 生涯学習について

市民であれば大仙市の歴史、文化、自然について知名度のある個所は即座にいくつか挙げるができるでしょう。

しかし、合併10数年経った今でも自分の地域以外は案外知らないのが現状です。地域に埋もれている宝物をもっと市民に知ってもらう方法を取り入れてもらいた

いところでは。

大仙市が誇る全国花火競技大会に次ぐ大会になるであろう、全国500歳野球大会。新しく始まる一大事業です。

この大会を進めるには多くの市民と職員の動員が欠かせません。大仙市の更なる知名度の向上と経済効果も期待できることから、関係者のご奮闘をお願いいたします。

毛利博信（元小・中学校長）

市民大学教養講座「春の花めぐりとウォーキング」事業の評価でも述べさせていただいたが、生涯学習・学校教育その他あらゆる機会を通じ、大仙市の優れた文化や豊かな自然を、オール大仙的郷土愛醸成の観点から伝えていきたいものである。

大仙市の鳥カワセミを、どれだけの大仙市民が見たことがあるだろうか。大仙市の木である櫨の、県内一の大木が神岡の町の中にあることを、どれだけの市民が知っているだろうか。中世の息づかいの聞こえるような檜岡城が、素晴らしく整備されたことを、どれだけの市民が知っているだろうか。大仙市内には、国宝一つを含む国指定や国登録文化財が10か所にあることを、どれだけの市民が知っているだろうか。

8市町村合併による大仙市誕生から、12年が経過し干支も一巡りした。あらゆる機会を捉えて、特に明日の大仙を創る若い世代には、大仙市の隅々にまで豊かな文化と美しい自然が広がっていることを伝えたい。そのことで、市全体の発展を願う市民が育ち、活性を支えてくれるものと考えます。

教育委員会職員各位の、一層のご活躍を期待申し上げます。